

授業公開と授業評価報告

美術教育講座・向川信博

1. 授業の概要

本授業は、立体を造形するうえでの基本的な考え方や見方を、可塑性のある粘土を用いて模刻し学ぶ、立体デッサンの授業である。受講者は、造形芸術コース一回生11名、教員養成課程美術専修一回生5名で、塑造経験者は数名である。

実制作に入る前の粘土練りや、制作台、心棒造りを各自でおこない、制作終了時ごとに出る石膏くずなど廃棄物もそれぞれが処分するようにし、準備と整理を含めて制作とした。終わりに、取り組み姿勢について考え、自己評価をした。

また今年度は、石膏雌型制作時に授業公開と、検討会を行った。

2. 授業の目的

- ・ 立体造形の基本的な考え方や見方を理解する。
- ・ 粘土を用いた石膏像の模刻を通して造形の基本的な組み立て方を理解する。
- ・ 量感を考える。
- ・ 均衡感を考える。
- ・ 空間を意識する。
- ・ 心棒をつくる。
- ・ 石膏取りができる。

3. 授業のスケジュール

- 第1回 立体構成の基本的な観点や、制作過程について
- 第2回 心棒の制作と粘土の準備
- 第3回 クロッキー
- 第4回 肉付け
～ 粘土完成・講評
- 第8回 石膏取りについて
- 第9回 石膏雌型制作
授業公開
- 第10回 粘土かき出し
- 第11回 石膏流し込み
- 第12回 割出し
- 第13回 割出し・修整
- 第14回 台座制作
- 第15回 合評・総括

4. 用具・材料について

粘土、石膏などの造形材料、粘土用・石膏用篋、心棒用木材、道具等は用意されている。

5. 評価について

取り組み姿勢を勘案し、作品によって評価した。作品評価は、質、完成度のみならず制作過程における追求内容なども含めた。

6. アンケートについて

授業の最終日に以下の項目で自由記述によるアンケート調査をおこなった。

- ①自身の取り組みについて、②授業内容について、③今回の授業で学んだこと、それを今後どのようにいかすか、④その他。

7. アンケート結果（受講生が記述した文章をそのまま転記する。）

- ①自身の取り組みについて（研究状況、取り組み姿勢など）について
 - ・ 積極的に取り組めたと思います。
 - ・ 受講前と比べ、立体に対する考え方が変わりました。
 - ・ 作品と深く向き合ってたつもりだったが、うまく反映できなかった。
 - ・ 集中力を切らさず、前向きに取り組めた。
 - ・ 粘土に触るのが好きだし、楽しく制作できた。
 - ・ 初めての取り組みだったが、自分でも考えながら積極的にできたと思う。
 - ・ 面白かった。とても熱中できた。授業時間外もやった。
 - ・ 難しさも大変感じ、分からないと思いながらも何とか前に進もうとしていた。
 - ・ 熱心に、また楽しんで取り組めた。
 - ・ 初めてのことが多く、とまどいもありましたが、自分なりに立体感をつかむために考えながら制作した。
 - ・ 集中力に欠けるときのがあった。
 - ・ こだわられるだけこだわったつもりでしたが、

- 後でまだできることがあったと反省しました。
- 石膏を入れるバケツがもう少し大きいといいと思います。

②授業内容について感じたこと

- 「塊」と、空間をとらえることの難しさを感じた。
- 今まで触れたことのない素材にふれることができおもしろかった。割り出しが一番楽しい作業でした。
- 全体的に面白いことが多く楽しくできたが、楽しいだけではダメだなと、できあがった作品を見て思いました。
- 楽しく取り組めた。難しそうだと思っていたが、丁寧な指導であまりプレッシャーを感じずにつくることができた。
- ゆっくりすすめられたので、落ち着いてじっくり考え作業をすすめることができました。
- 休憩時間がながくてよかった。
- 粘土原型と石膏の感じの違いにとまどいました。素材感の違いを学びました。
- 段階を踏んでできたのでよかった。説明も分かりやすかったです。
- 制作過程の把握が困難だった（覚えきれなかった）。考えることの必要性を感じた。
- 行程が把握できなくて、見通しが立たず、今やっている作業が何なのか分からず、ひたすらにこなすという時も少なくなかった。でも新しい世界が広がった気がして楽しかった。
- 自由な感じがして、やりやすかった。
- 新鮮な体験が多くできた。
- 絵画との繋がりを感ずることができてよかった。
- 少し単調に感じた。

③今回なにを学び、それを今後どのように生かしたいか

- 「強く存在すること」の難しさ。全体と部分の関係。私は多分デザインを専攻するが、その関係の仕組みはためになった。
- 立体についての考え方。奥行きについて今後とも考えていきたい。
- 全体を意識すること。自然と形になるということ。
- 納得のいくまでこだわること。他の分野でもこの体験を生かしていきたい。
- 中心線の位置、顔のつくり、塊。客観的、多角的、冷静に。これからの制作、教育への着目の仕方へ。

- 立体のとらえかた。
- 作業の難しさ。いろいろな過程をへて、一つの作品ができるんだなあ。
- 奥行きや塊の面など、なんとなく分かったような気がした。
- 塊のとらえかた。石膏の扱い。
- 見通しをたてること。強く存在するということが少しだけ感覚でわかったように思います。
- 塊。
- 全体を見通してすすめることの大切さ。
- 素材の性質。感じ方。
- 立体を考えることで、平面にも少し影響が出ることをデッサンしたときに感じたので、このことを次に生かしたい。
- 立体感。説明的になってしまったので、改善したい。
- 立体感、全体感。それを意識していきたい。学んだ新しい視点を反映させたい。

④全般に関して

- 作業スペースが少し狭く感じました。
- 人数にたいして、部屋がせまい。
- 片付けの際の呼吸のしづらさを改善してほしい。

8. まとめ

制作環境についてこれまで重点課題として、改善に取り組んできた。今後、有効な空間利用を一層はかりたい。

授業内容については、学生にとって未経験の取り組みであり、また基礎をしっかり学びたいという前向きな気持ちもあって、概ね肯定的な記述になっている。

第9回 石膏雌型制作で授業公開。その後、検討会をおこなった。